

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
日本気象学会 昭和63年度春季大会	昭和63年 5月18日 ～20日	日本気象学会	柏市民文化会館・柏市勤 労会館	Vol. 34, No. 12
第12回レーザセンシング シンポジウム	1988年 5月27日 ～28日	レーザ・レーダ研究会 シンポジウム実行委員会	岡山市・桃花苑	Vol. 34, No. 10
Scale Modeling 国際シ ンポジウム	1988年 7月18日 ～22日		東京	Vol. 34, No. 6
国際シンポジウム第3回 流れのモデル精度向上化	昭和63年 7月26日 ～28日	同組織委員会, 他	日本都市センター	
第27回 COSPAR 総会	1988年 7月18日 ～29日	宇宙空間研究委員会 (COSPAR)	フィンランド, ヘルシン キおよびエスプー	
国際オゾン・シンポジウ ム	1988年 8月 8日 ～13日	IAMAP オゾン委員会	西ドイツ, ゲッチンゲン (ゲッチンゲン大学)	Vol. 34, No. 1
Postgraduate Summer School on Microwave Remote Sensing for Oceanographic and Ma- rine Weather-Forecast Models	1988年 8月14日 ～9月 3日	EARSeL	イギリス・スコットラン ド Dundee 大学	
国際放射シンポジウム	1988年 8月18日 ～24日	IAMAP 放射委員会	フランス, リール	Vol. 34, No. 1
第6回エアロゾル 科学・技術研究討論会	昭和63年 8月23日 ～25日	エアロゾル研究協議会	大阪市立労働会館	Vol. 35, No. 2
数値モデルの系統的誤差 に関するワークショップ	1988年 9月19日 ～23日	WMO	カナダ・トロント	
The 2nd International conference on Atmosph- eric sciences and Applica- tions to Air Quality	1988年10月 3日 ～ 7日	同国際組織委員会 国内組織委員会	日本学術会議	Vol. 34, No. 9
日本気象学会 昭和63年度秋季大会	昭和63年10月26日 ～28日	日本気象学会	宮城県民会館	
大型レーダー国際学校	昭和63年11月24日 ～28日	京都大学超高層電波研究 センター	京都市・烏丸京都ホテル	Vol. 35, No. 4

編集後記：1月末、名古屋大学水圏科学研究所教授の小野見先生が急逝されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。小野先生は日本のエアロゾル、大気化学研究の第一人者として、独自の研究領域を開拓された方でした。研究者として大変優れた方であっただけでなく、大変おやさしい、思いやりに満ちた方でした。人の命の限りあることを痛切に感じさせられました。これも、限りある命の中で精一杯生きよ、研究に励めよとの教えと思っております。

先日、編集委員会に「会員の声反映される投書欄をもうけてほしい」との意見がよせられました。本来「会員の広場」は投書欄であるのですが、十分機能していないようです。葉書でも結構ですので、「会員の広場」あてにご意見をお寄せ下さい。担当の委員に口答で伝えていただいてもかまいません。今回は、数名の方に口答で意見を寄せてもらいました。

(S)

私は国立の研究機関に勤めている者ですが、意外に省

庁の壁が厚いことに驚きます。つきつめてゆくと、研究計画や予算要求の際に、他省庁との重複は許されない、というおかみの方針にゆきあたるのですが、これでは省庁間の共同研究なんかできっこありません。何をすることも「〇〇研究所でやっているのでは」「〇〇庁とどこが違う」と責められる。やっとこれをクリアしたと思ったら、自分のところに予算がついたがために、他機関の予算が通らなくなり、末端の研究者間に余計な摩擦を生じる——。これは、大学との協力にもあてはまる話です。いろいろ問題もあるでしょうが、できれば偉い先生方に、学術会議などを通して、研究者が省庁のわくを越えて協力できる体制に改善できるよう、学術会議などを通して働きかけてほしいと思います。

私共末端の研究者も、交流を活発にして相互理解を深めていきたいものです。日本では、決して研究者の数は多くないので、協力しやすい環境を作ることが、自分達にとっても有益であると思います。

(T)